

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第13回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和6年12月4日(水) 13:30 ~ 15:30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委員 (部会長：志村 陽子)				<敬称略>
	福田 美和	山内 京子	一色 ふみ子	小池 美津代	生駒 友一
	北島 拓也	近藤 博子	西條 由美子	窪田 千亜紀	石塚 由江
	事務局：馬場 聡子、秋山 仁志、檜山 咲紀、上玉利 芳綱				

1 連絡・確認事項

(1) 司会・書記の確認 (司会:北島委員、書記:事務局)

(2) 参加者・配布資料の確認

欠席者 名川委員、栗田委員、棧敷委員、蛭子委員

(3) 連絡事項

① 宇田尻委員の逝去について

11月17日にご逝去された。2年7か月ほど闘病されていた。お悔やみ申し上げます。
→各委員から順番に、宇田尻委員へのお悔やみの気持ちを発声、共有した。

② 運営会議の報告

- ・2年間を通じたまとめに入っていく。11月21日に実施した連携企画は、今後も定着し発展的になれば良いと思う。名川先生も、参加者の反応を前向きに捉えてくれていた。
- ・協議会だよりについて。今回は、先述した11月21日の連携企画を振り返って載せる。編集委員は山内委員にお願いしたい。400字程度。北島委員と一緒に進めてほしい。
→山内委員、北島委員、了承。
- ・第3回本会について。令和7年3月3日(月)に開催する。報告書は2月20日までに作成し、本会当日に配布する。

2 前回専門部会の振り返り

- ・第12回専門部会議事録
- ・第12回ご意見カード集約 …二点とも、ご意見があれば今週ぐらいまでに事務局まで。

3 議題

(1) 今後の検討課題について

【あんしんカフェ振り返りからの課題抽出】

- ・時間がたってしまったが、やりっぱなしでは良くない。その地域での生活感を交流する場面の必要性はある。思いを吐き出す場。今、様々なカフェがある。相談支援専門員カフェなど。
- ・社協が配布しているティッシュにチラシが入っていた。部会と社協でコラボしてはどうか。社協ではコミュニティ・ソーシャルワーカーが活躍している。まちのみんなと話したい私たちというアピールもひとつ。
- ・相談支援事業所にも声掛けしたらどうか。就労支援センターの「たまりば」の皆さんからも、ユニークな視点を得られたりしないか。災害時どうするのか?などインタビューしてみても

いいかもしれない。

- ・必ずしも課題抽出しなくてもいいのではないかな。口に出してもいいのかな、という話題を共有する場でも良いが、あまり発散しすぎるとうまくまとまらないかもしれない。「防災」にテーマ絞ってもいいのでは。
- ・あんしんカフェに、様々な方に来てほしいが、どういう呼びかけ方がいいのか？
- ・既存の団体へ訪ねてみるのはどうか。地域には様々な会合がある。そこにお邪魔してみるのはどうか。サポートセンターを出て喫茶店とかどうか。どういう風を楽しもうか、という視点で議論するのが部会の醍醐味ではないか。
- ・社協には、地域福祉コーディネーターがいる。多くの人が関わっている。そこを巻き込むのはいいことかなと思う。

【まちあるき共有方法】

- ・街の掲示板に貼らせてもらうのはどうか。危ないところを周知する。
- ・どういう風に物を見て考えるか、アドバイスしてくれる視点があればより有効だと思う。
- ・広報誌を作ってみてはどうか。こういうことに気づきました、まちあるきって大事だよ、歩いてみてこの壁は危ないね、など載せてみる。
- ・参加していない人に知ってもらう方法は何か。年齢問わず多くの人が集まる場所として出張所、区役所、文化の森、サポートセンター、老人いこいの家、児童館、子ども食堂だんだん等。「まちあるき」というワードを知ってもらう。「自立支援協議会」というワードだと堅く、遠いものと感じてしまう。もう少し身近なものになるのではないかな。
- ・みなさんの話をきいて、発信することが大切だと思った。まちの掲示板は、若い人はなかなか見ないから、ネットで発信できないか。
- ・たくさんの認識を共有できた機会だった。一緒にゆっくり歩いただけでも、人によって残った印象が違う。YouTubeだと見てもらいやすそうだが、作成・編集が難しそう。
- ・近藤委員の意見を元にやってみようと感じた。ポスター掲示など。子ども食堂だんだんのエリアの志茂田地域をサンプルに。栗田委員の意見も聞いてみましょう。

【福祉理解スキルアップ講座受講報告】

- ・10月23日（水）に実施された、区役所内での研修に事務局職員が参加。講師に山内委員と栗田委員が登壇し、当事者の立場と視点から講和があったことを報告。

(2) 今年度の予定について

- ・第14回専門部会 「個別避難計画」の進捗について、福祉管理課 河野係長、障害福祉課 山下係長に来てもらい、話を聞く予定。
- ・第15回専門部会 報告書の作成

4 委員及び各関係機関からの情報提供

(1) 情報提供

- ・志村部会長から

11月21日の防災会議に出席した。鈴木区長が、大田区の防災を見直していきましょう、と喚起された。また、今までの防災計画では実行不可能だということが検証されたということが資料で示された。次年度、新しい視点で計画を詰めていく。要支援者への配慮、バリアを作

らない、というキーワードも盛り込まれる見込み。民間の倉庫トラックを使った物流訓練などがあるらしい。前提として、個人それぞれが、より身近な方と繋がっていく工夫が必要。避難行動要支援者会議にも参加予定。防災・あんしん部会として意見を伝えてくる。

・事務局から

10月17日に行われた矢口特別支援学校の防災訓練に参加した事務局職員から報告。志村部会長と2名で参加。第一部・第二部に分かれて実施。煙ハウスの体験をしたが、1m先も見えない状況に、怖さを実感。

・石塚委員から

学校PTAとして長年訓練を見てきている。「自衛消防隊」という考え方だが、それぞれ、発見・通報などがタイムライン的に入っていなかった。先生がどう動き、子どもがどう避難するか見えなくなっていた。本部長を中心とした動きや視点があった方がいい。みなさんも知っておいてほしい。子どもたちがのびのびと体験に参加できるのは区のおかげであり、ありがたいと思っている。

→校長先生が避難所長となるが、実際問題、機能するのかなと疑問に思う感想をもった。(北畠委員)

→東日本大震災の時の大川小学校は重要事項を決めていなかった。ふわふわしていて何とかするのはという考え方だった。津波が起きた時にどうするか検証しておらず、実際に行動することもなかった。以降、ハザードマップを信用するな、と言われていた。防災教育をしてきた背景。サポートセンターでも、自衛消防訓練をしていることが前提になる。初期消火や動きの想定等をやっていないなかで、総合防災訓練をやることは疑問に思う。大きく訓練する必要はない。(石塚委員)

→自分の意思決定で、大きく左右されることもあるという認識を持つことは大切。(北畠委員)

→防災・あんしん部会の過去の報告書を見ていて、オブザーバーとして消防の方を呼ぶのはどうか。(志村部会長)

→今日の話聞き、地域の人とまちあるきに参加した時に「昔はこうだったよ」というお話が聞けたことを思い出した。まちあるきやカフェの今後の発展の仕方として、昔から地域にあるものに参加していくことは、やりやすいと思う。(窪田委員)

→声をかけてもらわないと、居ないのと同じ。気が付いた方が声をかけてくれた方がよい。(山内委員)

(2) ご意見カード記入

※次回の日程

専門部会：令和7年1月8日(水)13時30分～15時30分 さぼーとびあA棟5階多目的室